



# 〈対談〉八女和紙を使う

——張子面、張子人形、団扇、錦絵—— (二)

お話

宮松喜久三郎 (人形・錦絵制作者)

聞き手・筆録・編集

大庭 卓也 (久留米大学文学部教授)

今号は前号 (第六号) に続いて、福岡県うきは市において八女和紙を使った張子のお面や人形、団扇などを製作されている宮松喜久三郎氏のお話の後半部分を掲載する。

## 八女和紙で作る団扇

大庭 宮松さんが八女和紙を使ってお作りになったものは、狼面 (令和五年度の「お祭り横丁」でライブを行った和楽器集団「切腹ピストルズ」のため)、宮松氏が製作したお面。第六号を参照) のほかに何かございますか。

ピー機での印刷に落ち着きました。コピー機は和紙での印刷を想定してないので、機械に負担がかかるんでしょうけどね。「お祭り横丁」実行委員の方の事務所のコピー機で (笑)。版下の絵は黒一色で作りましたが、和紙にコピーすると黒のインクが紙に沈着するの、鼠色がかかった色合いになります。

大庭 しかも黒い部分全体に、筋のような模様がかすかに出来てますね。

宮松 もともとの印刷の荒さに加えて八女和紙の細かな繊維が、インクの付着にムラを作るんだと思います。

大庭 まるで馬棟で摺り出した木版印刷みたいですね。こちらの団扇 (図2) は地紙の部分が薄茶色ですけども。

宮松 これは柿渋を二、三度引いて、仕上げに荏胡麻油を塗っています。

大庭 この薄茶色は地紙の色ではなく、柿渋の色ですか。重ねて荏胡麻油を？

宮松 はい。そうすると耐水性が出て丈夫になります。

大庭 なるほど。そう言えば、昔、夏の暑さをしのぐために使われていた油団も、何枚も重ね貼りにした和紙に荏胡麻油を塗って、耐水性に優れていた

## 浮羽の童子丸伝説と八女和紙で作る張子人形

宮松 先ほど申しました信覚寺の美術展では、私を含め八名が参加しましたが、私は八女和紙で作った張子人形や錦絵を出品しました。

大庭 これは狩衣を着た少年ですね (図4)。

宮松 はい。うきは市の旧吉井町の伝説に出てくる童子です。このあたりの



図3 「お祭り横丁」(令和6・11・2)のチラシ (宮松喜久三郎氏画)

筑後川の堤防内に「童子丸」と呼ばれる池があります。江戸時代、水害に悩まされていた村人が人柱を捧げようとしていたところに白装束の童子

宮松 昨年のうきは市での催事「お祭り横丁」(令和6・11・2、会場はうきは白壁交流広場・白壁の小路)では、地域の人々と団扇を作りました。四国の業者から購入した骨に、松尾和紙工房さんの八女和紙に私の絵を印刷したものを皆で貼って。

大庭 浮世絵風の意匠ですね (図1)。こちらの団扇は、「お祭り横丁」の「丁」の字をあしらってますね。どのようにして八女和紙に印刷を？

宮松 自宅のプリンタやシルクスクリンなど様々に検討しましたが、品質や作業にかかる時間や予算などを考えて、結局事務用コ



図1 八女和紙の団扇 (宮松喜久三郎氏画)

そうですね。この団扇はお祭りで何本ほど売れたのですか？

宮松 百三十本ぐらい作って、百十本ぐらいは売れたかな。

大庭 このお祭りのチラシ (図3) も宮松さんの作ですね。ほおかむりをして、赤ん坊を背負った人物

が狼面を持っていますね。

宮松 はい。これは朝倉の筑前町にある浄土真宗の信覚寺というお寺で催した美術展 (令和6・10・27-11・10) に参加した時に、チラシに掲載するプロフィール画として描いたもので、私自身の姿です。二人の子供の世話をしながら、狼面を作りましたので。

大庭 なるほど。背後にも女の子がいますね。宮松さんのお子さんなのですね。

宮松 はい。芳年は好きですね。今後は筑後川流域のいろんな伝承などを描いてゆきたいと思っています。これは和紙のような風合いの西洋紙に印刷しましたが、今後はどうにか八女和紙に印刷できないかとも思っています。

大庭 筑後川沿いの伝承を絵解きにして子供たちに読ませたら、郷土愛を育ませますね。しかも八女和紙に印刷……すばらしい試みです。反響があったでしょう？

宮松 ええ。「お祭り横丁」での仕事や信覚寺の美術展を見た方々から、お店の周年記念の絵図製作など、早速いくつか仕事の依頼をいただきました。



図2 仕上げに荏胡麻油を塗った団扇

# 伝統工芸の国・筑後 第七号

〈対談〉八女和紙を使う  
 — 張子面、張子人形、団扇、錦絵 — (二)

大庭 今後も八女和紙を作品にお使いになるのでしょうか。

宮松 はい。時代の流れで、八女和紙の需要が少なくなつてゆくのは仕方ないことです。しかし技術は残つてほしい。ひと山越えたところに住んでいきますし、父の里が矢部川沿いで川辺の風景にも馴染みがありますので、私にできることは何かないかと今まで色々と試みてきました。もし八女和紙に携わる方や、その地域の方に少しでも喜んでいただければと。しかし張子は上に色を塗りますから、八女和紙の風合いを十分に活かした使い道とは言えません。和紙ならではの使い方も今後できたら面白いでしょうけど。

大庭 八女和紙を愛する若い方のお話を聞いて、たいへん嬉しく思います。私にも狼面を一つ作って下さいますか？切腹ピストルズが付いているのと同じ特別仕様のものを(笑)。本日はありがとうございます。どうぞ益々のご活躍を。(了)

(令和七年二月五日、久留米大学御井学舎本館の一室にて)



図5 「千歳川一円伝承話譚・童子丸伝説」  
(宮松喜久三郎氏画)



久留米大学文化財保存科学研究部会

〒839-8502 福岡県久留米市御井町1635

<http://kurumbunkazai.jp/>

令和8年3月20日発行

印刷：城島印刷株式会社

〒810-0012 福岡市中央区白金2丁目9番6号



宮松喜久三郎氏のInstagramはこちらから



図4 八女和紙の張子人形・童子丸  
(宮松喜久三郎氏作)

松尾和紙工房  
 福岡県八女市柳瀬六八一・二  
 〇九四三・二四・三八七六